

### 第3回 県立高校教育振興会議 議事概要

- 1 日時 平成30年1月19日(金) 13:00~14:40
- 2 場所 富山県庁4階大会議室
- 3 委員出席者 稲垣 晴彦 井上 孝 大西 ゆかり 加藤 敏久  
金岡 克己 金森 勝雄 神川 康子 川村 人志  
久和 進 佐脇 由紀子 牧田 和樹 耳塚 寛明  
森 雅志
- 4 事務局出席者 富山県知事 石井 隆一 (挨拶のみ)  
総合政策局長 山本 修  
教育・スポーツ政策監 荒井 克博  
教育長 渋谷 克人  
教育次長 山下 康二 坪池 宏  
企画調整室課長 竹内 延和  
教育企画課長 五十里 栄  
県立学校課長 本江 孝一  
他 関係課職員等数名

#### 5 会議の要旨

司会(竹内課長)が開会を宣し、石井知事が挨拶した。  
石井知事退席後、司会が議事の進行を久和会長に引き継いだ。

#### 議事事項

##### (1) 中高一貫教育校に関する協議

事務局(本江県立学校課長)から、資料9と資料10に基づき、前回の会議で出た主な意見を紹介した。

(久和会長)

- ・まず、中高一貫校について協議を行います。今程、説明のあった資料も踏まえながら、新たなご意見や前回の意見への補足なども含めて、ご発言をお願いいたします。

(稲垣委員)

- ・積極的な意見は、変わっていない。高校再編の時期と一緒にということは、現実的には不可能だと思っているが、会議として、何らかの結論を出さなきゃいけないと思う。中高一貫校については、継続して中身を議論されることを進めるのが、一番妥当なのではないか。

(大西委員)

- ・中高一貫校については、積極的な考えである。小学生の知能とか精神の発達には、大きな違いがある。発達が速い子ども、自己の能力を自ら伸ばすことを選択できる子どもが、富山県のみならず、全国、あるいは海外でリーダーとなるべき人材を育てていくことができる場所を選ぶことができることは素晴らしいことであると思う。
- ・慎重な意見の中に近隣の中学校のレベル低下を危惧する、とか、中学校の段階で郷土愛を育むというのがあるが、小学校で十分な郷土愛を育てていくカリキュラムが盛り込まれており、それほど危惧することではないと思う。むしろ、中高一貫校の学力の高い学校があるということが、富山県内全部の子どもたちの学力の底上げになることに貢献すればよいのではないか。
- ・ただ、周りからは、「格差」とか「区別」を危惧される言葉を聞くので、そうならないような作り方をされればいいと思う。
- ・子どもがどんどん減っていく中で、新しい中学校を新設することを提案するという点については、今の時期はどうかかなという思いでいる。

(金森委員)

- ・当村は、昨年から小中一貫教育の、文科の指定された研究校となっている。富山県には、3校の探究科があるので、そういった関係をもっと内容を高めていくとか、研究指定されている小中一貫との繋がりがどうなっていくのかということが頭の中にあるので、慎重論として発言させていただく。

(神川委員)

- ・今すぐではなく、少し検討することが必要かと思う。中高一貫教育が、富山の教育の積み重ねてきた方向性に特徴を出していくことに効果を発揮するのかどうかということも、検証していかなければいけない。
- ・中高一貫校を設置していくメリットがどれほど期待できるのかということも検証していく必要がある。
- ・危惧しているのは、各発達段階に応じて、しっかりと力を付けていかなければならないものがあるのが、中高一貫にすることによって、より学力偏重が加速化されてしまうのではないか。メリット・デメリットをしっかりと見据えて、特徴を出していけるのか、出していけないのか、今までの形では出ないのか、出来ないのか検討していけばいい。
- ・ただ設置するというのは、時期尚早なのではないかと思う。

(稲垣委員)

- ・格差云々の議論をずっと続けてきて、失敗してきたのが、失われた20年といわれる日本の社会だと思っている。その轍は踏まないよう

にしていだきたいということと、やはり、やるべきときにやらないと、それこそ全員茹でガエルになっちゃいますよね、ということもやはり考えていだきたい。

- ・そういう意味では、あるときまでに結論を出すという形で検討されるような、専門的な検討委員会、検討機関みたいなものが設置されるべきではないかと思う。

(川村委員)

- ・世の中が変わって、今の教育の体制でいいのかどうかとかいうことを研究した上で、中高一貫に進めるかとかどうかとかいう、プロセスが必要だと思う。
- ・今の小中高までを含めた6・3・3というのがいいのかどうか専門的に研究して今までのよくないところは変えていくとか、その延長線に中高一貫になるのか、小中一貫になるのかということが出てくるのではないか。
- ・そういう意味では、私は、やはり世の中変わったなら変わったなりのことを、体制に合うようにしていかなきゃならんということでは、積極的に行くべきと。
- ・これはあくまでも、専門的な人とか含めていろんなことを検証しながら、そういうものがあってということと言うと、私はこういう振興会議じゃなくて、何か専門的な機関を設けて、文科省の方向も見ながら。こっちだけが先行していくというのもちょっと時期尚早かなと。

(金岡委員)

- ・やはり設置主体が異なるのは、好ましくないだろう。一つのポリシーが統一されない連携型というのは、まず、中高一貫校の理念に合わないと思っている。
- ・そして、石川県、福井県の中高一貫教育校設置状況を見ると明らかに、併設型の倍率が高く、しかも高校よりは中学受験の倍率が高まっている。ということは、今のままの教育の形を踏襲すると、結局、受験勉強が小学校の段階まで落ちてくるだけだと、いうふうに見える。
- ・社会のリーダーを育てていく考え方に、基本的に反対するものではないが、ここに現れている数値、その他を見ると、むしろネガティブな影響の方が大きいのではないか。
- ・県立高校の再編が大きな問題になっているのも、地域、生徒、保護者など、たくさんのステークホルダーの方々がいらっしゃるからで、そういう方々の意識が高まらないうちに、必要だからやるというのは、必ずしも賛成できない。

(久和会長)

- ・2回にわたり委員の皆さんから、ご意見をいただいた。

- ・社会を変革するリーダーの育成には全人格的な教育が必要だという観点から、設置に積極的なご意見もいただいた一方、市町村立中学校の学級編制などへの影響などから慎重に考えるべきとのご意見をいただいた。それから、連携型の中高一貫校設置には消極的というご意見もいただいた。
- ・私も今後の教育のあり方をしっかり検討してほしいという思いは持っている。
- ・なお、再編と時期を合わせてということにはならないと思うので、引き続き、検討を進めていただくということにしたらどうかと思っているが、まとめ方については、後ほどご相談させていただきたい。それでは、こういう方向で進めるということによろしいでしょうか。

＜全員、異議なし＞

## (2) 再編統合の対象校及び実施時期に関する協議

- ・久和会長が、県情報公開条例で、会議の意思決定に至る各段階での情報を公にすることによって率直な意見の交換が損なわれるおそれがある場合は非公開とすることとされており、本会議の設置要綱第6条第2項の規定により、以後の会議を非公開とすることを委員に諮ったところ、異議はなく、以後の会議は非公開で行われた。
- ・前回の会議で事務局に作成を指示された報告書案を基に協議が行われた。
- ・協議の結果、「県立高校の再編統合の対象校などについて（報告）」のとおりとりまとめることで、委員全員が了承した。

## 6 閉会

14時40分、議事が終了したので、久和会長が閉会を宣した。